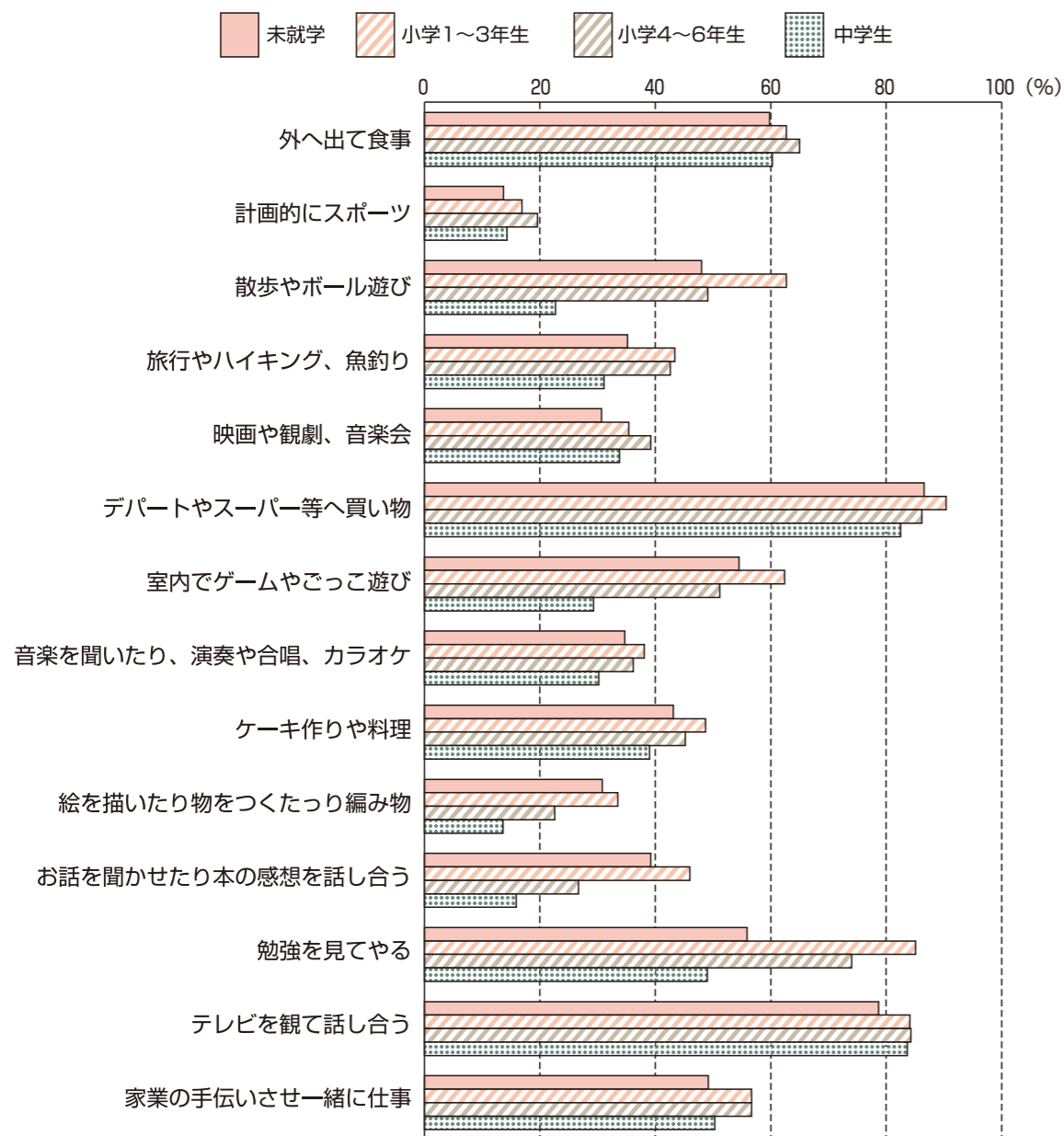


子どもたちとよく一緒にすること

(対象：中学生以下の子どもがいる世帯)



資料：厚生労働省「全国家庭児童調査」(平成21年度)

コラム「愛着(アタッチメント)」



養育者と子どもとの間に形成される強い愛情の絆(きずな)およびその表現行動をいいます。

子どもは生後6ヶ月ぐらいから、自分を継続して世話してくれる母親や父親およびその他の養育者を他の人と区別して認識し、甘えたり親愛の情を示します。おとなの側が安定して応じることで子どもは安心して生きていくことができます。この安心の感覚が基本的信頼感としてその後の人間関係を結んでいく基礎となります。



「だきしめる」



エピソード

京子さんの長男の純一君は3歳6ヶ月。もう一人で階段ものぼれるし、シャツのボタンもとめることができます。半年前に美保ちゃんが生まれてからは、聞きわけのよいお兄ちゃんとして振る舞っているようです。今日はみんなで礼子さんの家に遊びにきました。

礼子：「純一君は本当に聞きわけがいいわねえ。一人でおとなしく遊べるのね。それに比べてうちのヒロシはいたずらばかりで。こら！美保ちゃんの服を引っ張ったらだめでしょ！」

すやすやと眠っていた美保ちゃんが、たちまち泣き出してしまいました。

京子：「よしよし、いい子だからね。ミルクがほしいのよね。いまあげるからね。あっ、おしめもぬれているわね。今かえてあげるからね。」

おしめをかえて、用意していたほ乳びんでミルクを与えます。泣きやんでミルクを飲む美保ちゃん。ヒロシ君もじっとのぞき込んでいます。

礼子：「ヒロシも赤ちゃんのときはこんなだったのよ。ほっぺたがまんまるでかわいらしくて…。よく女の子と間違われたのよ。今じゃ、いたずらで傷だらけだけれど。ほら、あっち行って純ちゃんと遊んでいらっしゃい。」

京子：「そんなことないわよ。ヒロシ君も素直でいい子よ。うちの純一とも同じ学年になるし、いいお友だちでいてほしいわ。」

礼子：「でも女の子ってやっぱりかわいいわねえ。お母さんの味方になってくれるだろうし。私も次は女の子がほしいな。」

すると突然「ギャー」という声が隣の部屋から聞こえてきました。

京子・礼子：「どうしたの！」

あわてて飛び込んでみると、ヒロシ君



が足を押さえて泣いています。

礼子：「どうしたのヒロシ！」

ヒロシ：「純ちゃんにたたかれたー。いたいよー！ウェーン。」

はっとした京子さんが純一君をみると、積み木をにぎりしめて立っています。

京子：「どうしたの！なんてことするのよ！あやまりなさい！」

純一：「あっ。」

(ジョー) 純一君はズボンにおもらしをしてしまいました。

京子：「純一！」

(パチーン!) 思わず純一君のほっぺをたたいてしまった京子さん。

純一：「ママごめんなさい！ ウーン！」

ヒロシ：「ウーン！ウーン！」

…ハッと我に返った京子さん。

とっさに純一君をぎゅっとだきしめると、純一君はしゃくりあげながら京子さんにしがみついてきます…。



京子さんのひとりごと…

● おもわずたたいてしまったわ。

いつもは聞き分けがよくて助かっているのに…。

何か気に入らないことがあったのかしら。

でも、よくないことをしたときには、

その場できちんとしかれて言われるし、

わがままになったら困るから

たたいてよかったのかもしれないわ。

もうあんなことをしないように

よく言い聞かせておかなくては。



話しあいのポイント

● あなたにもエピソードとおなじような経験はないでしょうか？

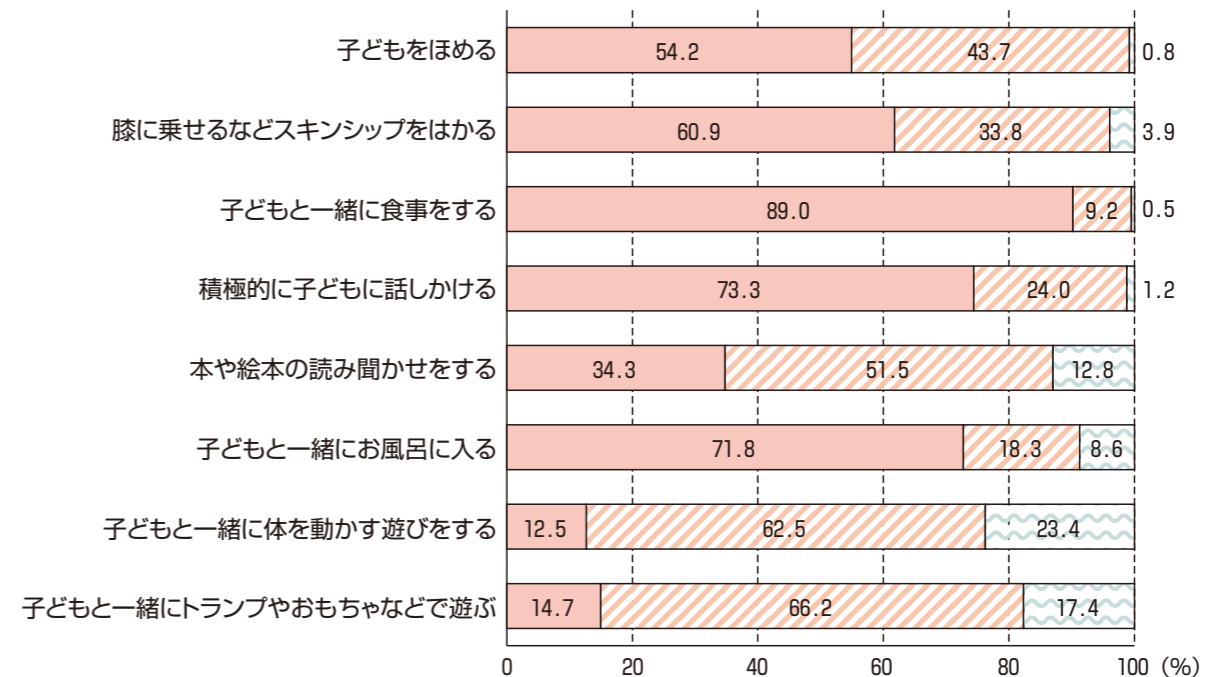
● 純一君はなぜこんな行動をしたのでしょうか？

参考資料

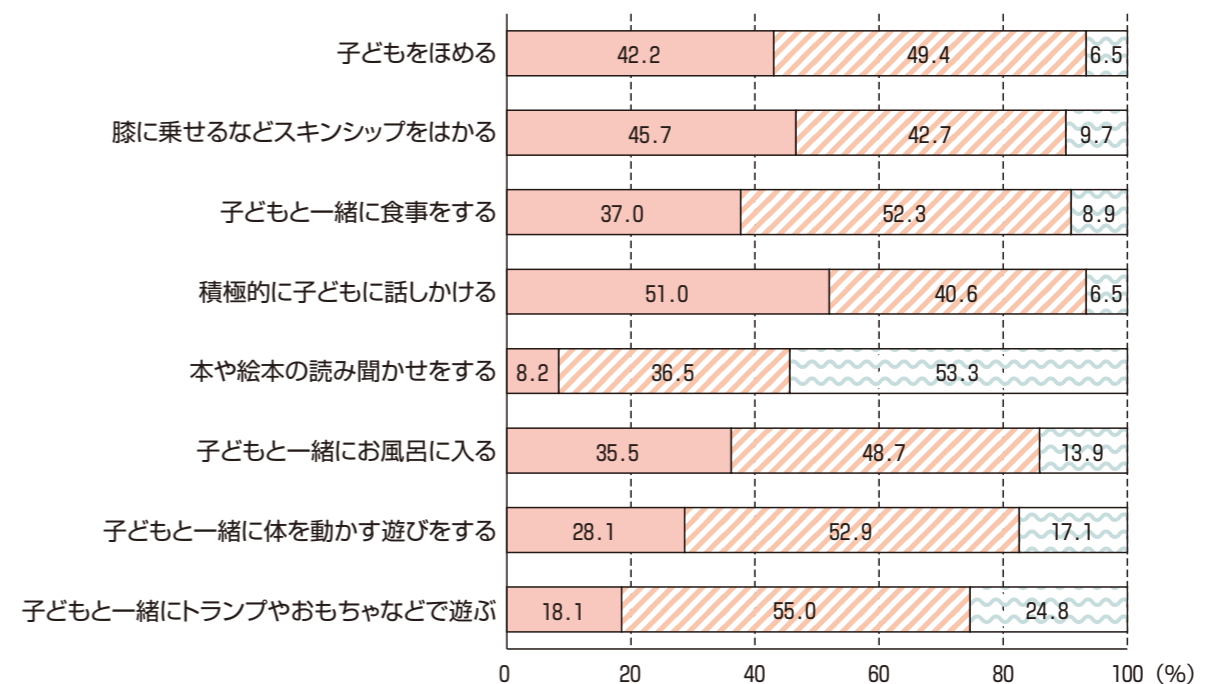
■ 父母の子どもとの接し方(対象:2001年出生の子どもをもつ親)

● 母親の子どもとの接し方

よくしている できるだけするようにしている していない



● 父親の子どもとの接し方



資料：厚生労働省「第6回21世紀出生児縦断調査結果の概況」(平成19年度)